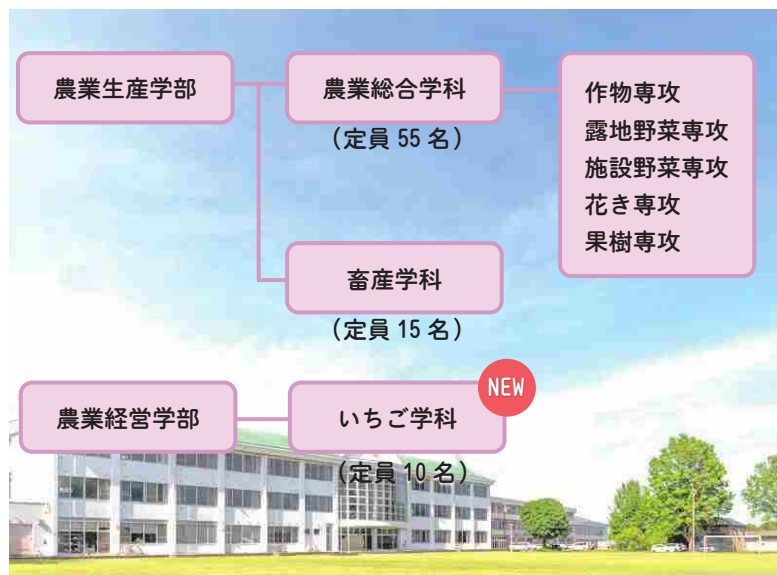




## 次代の産地や農村社会のリーダーとなりうる人材へ。



### 01

## 農業大学校の学科が再編されました。

1. 「農業生産学部」と「農業経営学部」の2学部  
に再編されました。
2. 「生産学部」には、「農業総合学科」と「畜産学  
科」の2学科があり、「総合学科」では、「作  
物」「露地野菜」「施設野菜」「花き」「果樹」の  
5つの専攻に分かれています。
3. 「農業経営学部」に「いちご学科」が創設され、  
「いちご王国・栃木」をけん引する、優れた  
「いちご経営者」を養成します。

### 02

## 全国初の「いちご学科」スタート！

全国1位を誇る栃木のいちご生産を担う経営者の育成を目的として、令和3(2021)年4月、全国初の「いちご学科」がスタートしました。

在学する2年間では、「とちぎ農業マイスター」等による実践研修、いちご栽培に関わる技術や知識の習得のほか、企業的な視点から農業経営を実践するため、経営管理能力の習得に向けた講義演習も行います。その他、課題について議論するゼミなど密度の濃い講義を受講するなど、優れた技術と高い経営能力を持った「地域のリーダー」となりうる人材の育成を目指します。



## Message

### 「目指せ1億円プレイヤー」

本校は創立116年を迎えた歴史のある学校で、優れた農業経営者の育成を目的として、実践的な教育・研修に重きを置き、講義と実習の時間を1対1の割合で行っているのが特徴です。

これから農業を目指す皆さんにお伝えしたいこと、それは、農業は今、成長産業として大きく期待されている、ということです。農業経営においては、創意工夫によっては、1億円プレイヤーになることも夢ではありません。本校で農業を学ぶ皆さんには大きな夢を持ってもらいたいと願っています。

皆さんの夢を後押しするため、本校では、いちごを専門的に学べる日本で唯一の「いちご学科」や、専攻作物を中心として広く農業全般について学ぶことができる「農業総合学科」と「畜産学科」を開設し、講義や実習を行っています。

農業をめざすあなたの夢を農業大学校で叶えてみませんか。



栃木県農業大学校  
校長

新見 清夫

# 農業生産学部

## 農業総合学科・作物専攻



### 農業の基礎である土地利用型作物の生産技術の習得を目指します。

#### 水稲・畑作に関する最新技術について学んでいます。

水稲専攻では、「とちぎの星」など良食味品種を用いて、苗箱全量施肥や高密度播種苗栽培など低コスト・省力化技術に取り組むほか、ICT技術として水田センサーを活用した水田管理も行っています。畑作専攻では、健康食材で注目されるもち性大麦「もち絹香」など本県オリジナル品種の栽培をしており、もち麦については加工にも取り組んでいます。

学生はそれぞれ 10a 程度の田畑を担当し、農業機械の操作を含め田畑や作物の管理を主体的に行います。

Pick Up!

水稲



一人一人の学生が担当するほ場（田畑）を持ち、実習を通じて生産から出荷まで、目標をもって学んでいます。

畑作



「もち絹香」など県のオリジナル品種の栽培をしており、加工にも取り組んでいます。

### voice

#### 先輩たちの声

在校生



2年 石井 大翔さん

#### 「計画を立て研究する！」

私が専攻する畑作は、土地利用型作物である麦・大豆を中心に、そばや小豆の栽培にも挑戦しています。一人一人が試験計画を立て、基本的な栽培を学びながら機械による作業や生育・収量及び品質・食味などの調査を行っています。

私は食用大麦に興味があったので、炊飯後の褐変が少ない「とちのいぶき」と褐変が少ないことに加え水溶性食物繊維が高いもち性の「もち絹香」を栽培し、特性の把握、収量や品質における優位性を研究しました。

栃木県で育成された水稲と麦を栽培した農業経営を目指したいと思います。



卒業論文



2年 上野 歩夢さん

#### 「水稲『とちぎの星』の省力栽培」

水稲栽培は育苗・移植に労力が掛かるので、苗箱数を減らして省力化する高密度播種苗移植（密播）栽培に興味を持ちました。

そこで、栃木県のオリジナル品種の「とちぎの星」を使って、密播栽培による生育・収量への影響、労力や費用について研究をしています。慣行の栽培方法と比較するために 30a の水田を 2 つに分け管理しています。また、とちぎ GAP の第三者認証を取得するための取組もしており、食品や労働の安全などについても学んでいます。

これらの経験を活かして、栃木県の農業に貢献できたら良いと考えています。

※記念撮影のため一時的にマスクを外し、撮影後はマスクを着用しました。





農業生産学部

農業総合学科・露地野菜専攻

## 「園芸大国とちぎ」をつくる、露地野菜の生産技術の習得を目指します。

### 露地野菜の栽培に関する最新技術について学んでいます。

露地野菜専攻では機械化一貫体系による玉ねぎ・ねぎの栽培管理技術を中心に実習や講義を行っています。その他、季節の露地野菜の栽培管理を学んだり、今後県内で作付増が期待されるしょうがなどの新しい品目などについても栽培方法等の検討を卒業論文の研究で取り組んだりしています。

また、地下水水位制御（FOEAS）により転換畑利用時の給排水が容易な地下灌漑システム水田や育苗時の自動灌水システム施設、乗用管理機などの施設や機械についても学んでいます。

Pick Up!

FOEAS 利用  
ねぎ栽培

秋冬野菜



ねぎの機械化一貫体系による栽培を学んでいます。一人一人が実際に機械を使って土寄せ作業等を体験しました。



実習を通じて生産から出荷まで、目標をもって野菜生産を学んでいます。

## voice

### 先輩たちの声

在校生



1年 大森 左貴さん

### 「身をもって農業を学べる！」

私が所属する露地野菜専攻では、主に玉ねぎ・長ねぎの栽培方法を学んでいます。品種比較や作期分散、病害の防除などの試験を卒業論文に向けて行っています。実習では機械化一貫体系により、実際に1人1人が機械を操作して、ねぎの土寄せや収穫・調整等を学びました。

機械で行う作業は思っていたよりも難しく、玉ねぎが真っ直ぐに定植できないことやきれいに畝が立てられないことなどに苦戦する場面も多くあり、身をもって農家の苦労に日々触れています。その他にも難しい作業もありますが、先生方のご指導や仲間たちと協力し、楽しく農業を学んでいます。



卒業論文

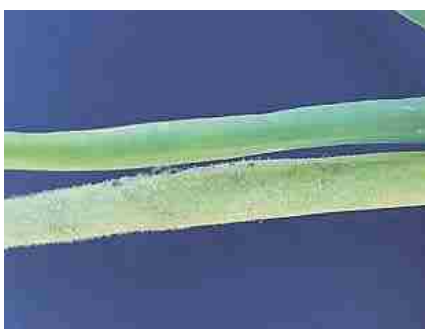


2年 大島 啓彰さん

### 「罹病株の抜取り徹底と薬剤散布によるタマネギべと病防除の検討」

栃木県では水田転換畑を活用した玉ねぎの作付が増加傾向にあります。しかし、連作を行うことなどで、べと病発生による減収が問題となっています。そこで、玉ねぎの苗がまだ小さい早春時期の栽培管理により、発生を抑制できないか検討しています。

べと病の越年罹病株は葉の湾曲や黄化等で判別できるため、このような症状の株を定期的に見回り抜き取ることと、防除効果の高い農薬の連続散布との組合せ効果などを確認して、病害発生による減収がない安定生産に役立てたいと思います





## 施設野菜に関する基礎知識や最先端の技術習得を目指します。

いちご・トマトに特化した施設野菜に関する最新技術を学んでいます。

Pick up!

いちご

トマト

本県主要品目であるいちご・トマト等の施設野菜について、38名の学生が実習と講義を通して栽培や経営技術を学んでいます。

いちごは「とちおとめ」や「スカイベリー」、「とちあいか」の新品種を、土耕栽培のほか高設の養液装置で栽培しています。トマトではハウス内の温度・湿度・炭酸ガス濃度などを遠隔で制御できる最新の環境制御装置を備えた高軒高ハウスでの栽培やロックウールによる養液栽培など、現場に即したノウハウを学んでいます。



12月からは、収穫・出荷の時期を迎えています。学生達が自身で管理・収穫したいちごの味は格別です。



最新の施設と設備で、トマトの栽培管理を学んでいます。

### 先輩たちの声

voice

在校生



1年 後藤 駿介さん

#### 「おいしいいちごを作る！」

私は施設野菜専攻でいちごを学んでいます。実習ではハウス管理や収穫・バック詰めなどの練習など栽培から出荷まで一連の作業を行っています。また、卒業課題として間欠冷蔵技術を研究しています。これは予冷庫を活用した花芽分化促進技術で新品種の「とちあいか」で調査しています。これからも研究成果に基づきいちご管理を学び、おいしいいちごを提供できるよう努力していきたいと思っています。



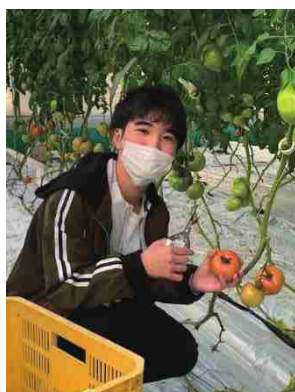
卒業論文



2年 小林 蓮さん

#### 「トマトの高軒高ハウスにおける連続摘心栽培が生育・収量等に及ぼす影響」

私は、トマトの高軒高ハウスにおける栽培で、樹勢の回復と収量品質向上を目指した「連続摘心栽培」に取り組んでいます。今まで農大ではロックウール栽培による低軒高ハウスでの事例はありましたが、高軒高ハウスでの連続摘心栽培を実施した事例はありませんでした。そこで、一般的な栽培方法と連続摘心栽培での生育・収量・品質への影響について検討しています。







農業生産学部

農業総合学科・花き専攻

## 切り花や鉢花などの基礎知識や栽培技術の習得を目指します。

様々な種類の切り花・鉢花の栽培に関する知識や技術を学んでいます。

Pick up!

切り花

鉢花

スプレーギク、カーネーション、ゆりなどの切り花やシクラメン、ハイドランジアなどの鉢花、パンジーなどの苗物を中心として、様々な種類の花きの栽培技術を習得します。

専攻実習では、新設された育苗施設（苗テラス）を利用した最新の育苗技術を体験するとともに、実際の生産現場の技術に即して播種・挿し芽から生育管理、そして出荷調製までの一連の管理作業を全ての品目について学びます。



年間を通して様々な種類の切り花を栽培しています。

卒業論文では、自分の興味のある品目を自由に選んで研究テーマを設定できます。



県内の主力品目であるシクラメンを中心に一連の栽培管理技術を学びます。

丹精込めて育てたシクラメンが温室一杯に咲き誇ると感慨深いものがあります。

## voice

### 先輩たちの声

在校生



1年 鈴木 萌さん

### 「実習で主体性と応用力が身につく」

私は農業高校で培った知識をさらに深めたいと、農大の花き専攻に入学しました。

農大は専攻実習の時間が多く、実践的な農業を学ぶことができます。また、座学では実際に実物を見て学ぶことができるためわかりやすく、先生も親身になって教えてくれます。

実習では主体性、そして応用力が身につきます。実習内容は花の栽培管理だけでなく、栽培に必要な様々な設備なども自分たちで作り上げるなど多岐にわたります。大変な作業も多いですが、同じ専攻のメンバーと協力し、品質の良い花を生産するための栽培管理の習得に向け頑張っています。

卒業論文では、「音と植物の関係性」について研究する計画です。



卒業論文



2年 木村 龍汰さん

### 「LED 補光における色の種類がシクラメンの生育に及ぼす影響」

私は、「LED 補光における波長の違いがシクラメンの生育に及ぼす影響」という課題で卒業論文に取り組んでいます。赤、青、緑の LED を日長が短くなる 9 月から照射し、生育や品質に及ぼす影響を調査しています。

LED 補光は様々な植物に使用されていますが、シクラメンで利用している事例はなく、どのような反応を示すのか気になり、この研究課題に取り組むことにしました。現在、シクラメンは開花のピークを迎えており、品質調査も最終段階に入っています。数値をまとめ、どのような変化があったのか明らかになるのが楽しみです。

※記念撮影のため一時的にマスクを外し、撮影後はマスクを着用しました。





果樹の基礎知識や先端技術を習得した、「即戦力」の担い手を目指します。

根圏制御栽培や GLOBALG.A.P. など果樹に関する最新技術も学んでいます。

県の主要品目であるなし・ぶどうをはじめ、りんご・くり・キウイフルーツ・かき・ブルーベリーなどの果樹について、時期に応じた管理作業を学ぶことができます。

また、県農試が開発した「盛土式根圏制御栽培」について、なしとぶどうで実習できるなど、最新の栽培技術を体験することが可能です。

さらに、国際基準である「グローバルGAP」の認証を「日本なし」で取得しており、食品安全・労働安全・環境保全に配慮した生産工程管理についても学ぶことができます。

Pick Up!

なし

ぶどう



なしでは、4本主枝棚仕立て栽培の基本技術を習得します。また、学生が自ら考えた卒業論文の研究テーマを設定し、樹の管理や調査など責任を持って行います。



ぶどうでは、「雨よけと露地栽培」「長梢と短梢せん定」「種ありと種なし」など、栽培方法の違いを含めた基本技術の習得を目指します。また、シャインマスカットやクイーンニーナなど注目の品種も学ぶことができます。

先輩たちの声

voice

在校生



2年 小島 郁哉さん

「大変な作業もみんなでやり遂げた」

果樹専攻では学生みんなで一緒に作業をする実習が多く、ほ場管理作業などを協力してやっています。ナシやリンゴの受粉に摘果、ブドウの新梢誘引や摘粒など、果樹栽培では適期に終えなければならない管理作業があり、短期間に作業を完了するためにみんなで協力して取り組んでいます。

卒業論文ではナシの品質向上の研究に取り組んでいます。試験区の設定や、調査・集計などを経験しました。栽培管理やほ場管理を学ぶのはもちろん、仲間と協力して物事に取り組むことなど、卒業後の人生にも役立つことをたくさん学んでいます。



卒業論文



2年 加藤 朴人さん

「SDGsなナシ栽培の研究」

栃木県は全国3位のナシの産地ですが、老木化や気候変動による生育不良や病害虫の多発などの課題が出ています。また、昨今、世界的に持続可能な農業が標榜されており、農業や化学肥料に頼らない農法への転換も大きなテーマとなっています。そこで、私は環境に優しい農法として研究されてきた「玄米アミノ酸微生物農法」に着目し、これらの問題をクリアできないか試験しています。剪定、施肥、着果管理などの試験樹の管理はもちろん、一般的な栽培法と比較して樹の生育や果実品質に違いがあるかの調査もすべて自分で行うので、とても良い経験ができています。





農業生産学部

畜産学科

## 畜産の基礎知識や先端技術を習得した、「即戦力」の担い手を目指します。

畜産に関する基礎知識やICTを活用した先端技術を学んでいます。

Pick Up!

酪農

肉用牛

学生は、酪農及び肉用牛専攻に分かれ、講義・専攻実習や毎日の農場管理実習を通して、乳用牛及び肉用牛の基本的な飼養管理（飼料給与・搾乳・衛生管理等）や飼料作物の栽培・調製技術、家畜人工授精師の資格取得など、畜産経営に必要な知識や実践的な技術について、幅広く学んでいます。

平成 30 年度に新設した「ドリーム牛舎」では ICT (情報通信技術) 機器を活用した先端の飼養管理を実践しています。



酪農専攻では、フリーストール牛舎で搾乳牛を飼養、ミルクパーラーでの搾乳をメインに、「哺乳牛からベテラン牛」まで、アニマルウェルフェアを心がけた管理を学んでいます。



肉用牛専攻では、基本的な飼養管理技術の習得に加え、ICT 技術による繁殖管理や体重測定データに基づく飼料給与計算等を学んでいます。

voice

先輩たちの声

在校生



1年 直井 隆騎さん

「農大は、自分が成長できる場所！」

私は、高校で学んだ畜産の知識や技術をもっと高めたいと思い、農大に入学しました。農大の牛舎は構造や付属機械などが高校とは違い、最初は戸惑いでしたが、実習の時間がとても充実しています。今では、基本的な飼養管理は難なくこなせるようになりました。牛たちに囲まれて行う実習はやりがいがあります。

また、農大では、家畜人工授精師や農業機械免許の他、簿記や情報処理関係など様々な資格が取得でき、自分が成長できる環境が用意されています。そして、何より友人と共に過ごす寮生活が楽しいです。将来への不安もありますが、学生生活を楽しみながら、たくさんの知識や技術を習得していきたいと思っています。



卒業論文



2年 仁ノ平 ゆいさん

「牛にも人にも優しい分娩を目指して」

本校では監視カメラや体温監視による通報システムで牛の分娩管理を効率化しています。それでも牛は夜に分娩することが多く、人が牛舎にたどり着くまでに時間がかかり、難産の対応が遅れる、担当者の負担が大きいなどの課題は残ったままでした。そこで、昼間に分娩してもらえれば…と考えました。

卒論では、分娩予定日の 2 週間前から餌の給与回数と時間を工夫することで分娩を司るホルモンの分泌を調整し、昼間に分娩を促す試みに取り組んでいます。これは人の都合だけではなく、アニマルウェルフェアを意識した、「牛ファースト」で楽しい調査です。

# 農業経営学部

## いちご学科



### 次代の「いちご王国とちぎ」を牽引する、いちご経営者を目指します。

いちごに特化した最新技術や経営について学んでいます。

Pick Up!

専門実習

産地調査

いちご栽培に関わる技術や知識の習得の他、企業的な視点から農業経営を実践するため、経営管理能力の習得に向けた講義演習も行います。その他、課題について議論するゼミなど密度の濃い授業を実施します。

生産量全国1位を誇る栃木のいちご生産を担う経営者を育成することが目的で、優れた技術と高い経営能力を持ち、地域のリーダーとなりうる人材の育成を目指します。



1年生では、校内ほ場において、いちご専門実習を行い、いちごの育苗から収穫・出荷調整までの生産工程と管理技術を学びます。

また、座学では、いちごの生理生態などを学びます。



栃木県内のいちご産地を訪問する「産地調査」や、活躍するいちご経営者を講師とした「いちご経営実践論」など、日本一の産地が持つ技術と人材を生かしたカリキュラムが豊富にあります。

### 先輩たちと先生の声

#### VOICE

在校生



1年 秋元 新 さん  
ほか7名

#### 「在校生に聞きました。いちご学科のおすすめポイント！」

いちご栽培、農業経営の知識がなくても、基礎から学ぶことができる

学生自らが管理を行うほ場があるので、より実践的にいちごの栽培管理を学ぶことができる

県内で活躍するいちご経営者を訪問し、農業経営や栽培技術について学ぶ「経営事例調査」や「いちご経営実践論」等を通じて優れた経営者とのつながりを広げることができる

いちご経営者になるという志を持つ仲間が集うので互いに切磋琢磨しながら学ぶことができる



#### 「いちごの技術と経営を学び、互いの将来を熱く語ろう」

先生



主任教授 大橋 隆

いちご学科は令和3年度に新たに開設された学科です。現在は、高校卒業と同時に入学した学生の他、社会人経験後に入学した学生もおり、様々な経験を持つ幅広い年齢の学生8名が、いちご経営者を目指して共に学んでいます。

いちご栽培や農業経営の専門家、県内トップクラスのいちご経営者などが講師となり、いちご経営に必要な知識・技能を習得しつつ、行政機関やJAグループ等の関係団体と連携を図りながら、就農に向けた計画づくり等にも取り組みます。

いちご経営者を目指すなら、いちご学科で学んでみませんか。





# 学生生活

~Campus Life~

## 学生自治会長



2年 大島 魁斗さん

## 「自分たちで企画し、楽しい学校生活にしよう！」

農業大学校では学生による自治会が組織されています。毎年10月頃に立会演説会と選挙を行い新たな自治会長の選出を行っています。

自治会では学校行事であるスポーツ大会や農大祭の運営を行っています。それ以外にも学校生活を楽しむために、新たな企画を考えたり、サークル活動を支援したりしています。

今年もコロナウイルスの影響で、農大祭やサークル活動を始め、いろいろなイベントが影響を受けました。来年度は新しい役員一丸となって、今まで以上に楽しい企画を考えていきたいと思っています。

スポーツ大会



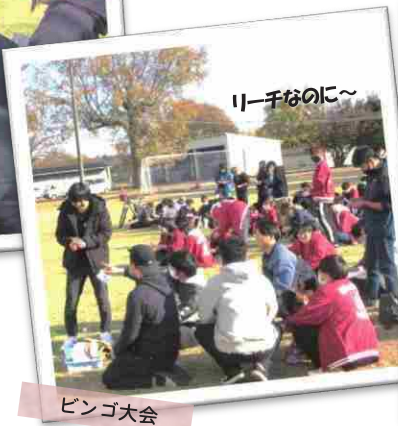
自治会役員選挙



## 学生自治会 Photo Album



農大祭 (学生販売)



ビンゴ大会



野外ライブ

## 「感染対策を徹底し、みんなで工夫しながら快適な寮生活を送っています！」

寮生で組織される「寮生会」は、寮生が快適に寮生活を送れるように運営している組織です。寮生会では、寮生みんなの声を積極的に聞き入れ、毎日楽しく過ごせるように日々改善を繰り返しています。

今年もコロナの影響で行動の自粛を余儀なくされ、親睦を深めるイベントは行えませんでした。感染対策を徹底し、空いた時間に集まってスポーツ等を行い、寮生同士の絆を深めています。

## 寮生会長



2年 高山 央大さん



女子寮、ロビーに集まって〜!はい、チーズ!



男子寮、集合!え、階段でいいの?はい、バリバリ!



## 「農業機械を」JA共済連より寄贈していただきました」

全国共済農業協同組合連合会栃木県本部が実施している地域貢献活動の一環として、このたび農業大学校に実習用農業機械を寄贈していただきました。

本校では、これら最新の農業機械を学生の実践的な農業技術習得のために活用し、次世代を担う意欲ある農業経営者の育成に結びつけていきます。

寄贈式では、JA共済連栃木の菊地会長から学生代表に鍵が手渡され、その後、機械の始動式を行いました。果樹を専攻している学生は「果樹園の下草刈りは重労働なので、ロボット草刈り機に興味津々。将来、就農する際の参考にしたい。」と話していました。



ロボット草刈り機 2 台、スイング式法面草刈り機 1 台  
クローラスプレーヤー 1 台、運搬車 2 台



## 「高校生へのオンライン授業を実施しました」

農大では、高校生の農業への関心を高め就農意欲を喚起するため、次世代デジタル農業教育事業の一環として、12月15日、真岡北陵高校とオンラインで結んだ特別授業を実施しました。

授業の配信は会議アプリを活用し、農大の高機能高設いちごハウスから、教員がいちごの施設や品種について映像を交えて説明をしました。生徒の皆さんは高校の教室にて映像を見ながら最新のいちご栽培について熱心に聞き入っていました。

これからの活用が見込まれるデジタル教材を使った授業を通して、最新の施設教材を使った農業生産の状況を知っていただくことができたと思われま

## とちぎ農業未来塾

Uターン、Iターンなどにより、栃木県内で農業を始めたいと考えている方が、円滑に就農できるよう、基礎的な農業経営の知識や作物の栽培技術などを研修します。

「とちぎ農業未来塾」は、就農準備基礎研修と専門研修合わせて82名でスタートしました。各研修とも、講義や実習、現地視察等で構成されており、各種作物の栽培技術や農業経営、農産物販売等のための基礎的な知識を学んでいます。

週1回のコースである就農準備基礎研修では、夏野菜と秋冬野菜に分けて計13種類の作物の栽培と出荷調製を実施しています。また、より実践的な内容を学ぶ就農準備専門研修（いちご、施設野菜、露地野菜、果樹）では、各専攻に分かれて今年4月からの就農に向け、全員が精力的に研修に励んでいます。



いちご苗の定植作業

## とちぎ農業ビジネススクール

経営の高度化を目指す意欲ある農業者を対象に、経営改革に必要な経営スキルを学びます。

「とちぎ農業ビジネススクール」は、経営の高度化を目指す意欲ある農業者の方を対象とした講座で、これまでも地域農業の核となる多くの農業経営者を輩出しています。

今年度は、県内各地から12名が受講しています。このスクールでは、経営者として必要な経営スキルや意識改革を行うために、セミナー及び受講者同士での討論を通じ自分の目指す経営改革の方向を明確化するとともに、各々が経営の個別課題を整理・分析し、実効性のある5カ年の「経営改革プラン」を策定しています。

今後は、このプランを実践し経営改革に取り組むことで、本県農業をリードする先進的な農業経営者となることが期待されます。



演習の様子